

沖縄市周辺観光施設とアクセス

※本計画地から車でのアクセス時間

沖縄市周辺観光施設とアクセス

- 1. 沖縄美ら海水族館 車で約1時間20分
- 2. 世界文化遺産 首里城跡 車で約30分
- 3. 那覇空港 那覇空港へ車で約1時間
- 4. 世界文化遺産 斎場御嶽 車で約50分
- 5. 1 沖縄県総合運動公園 車で約3分
- 6. 2 プラザハウス 車で約13分
- 7. 3 沖縄こどもの国 車で約14分
- 8. 4 世界文化遺産 中城城跡 車で約16分
- 9. 5 中央パークアベニュー 車で約16分
- 10. 6 コサミュージックタウン 車で約16分
- 11. 7 コザゲート通り 車で約16分
- 12. 8 沖縄市コザ運動公園 車で約17分
- 13. 9 世界文化遺産 勝連城跡 車で約21分
- 14. 10 東南植物楽園 車で約23分

沖縄市中心エリア

東部海浜開発計画

ON YouTube



紹介動画 ▶ 公開中!



沖縄県の紹介

- 2017年の入域観光客数(939万人)は過去最高を記録し、ハワイを初めて上回った。
- 第5次沖縄県観光振興基本計画の数値目標フレーム。(推進期間:2012年~2021年)
 - 観光収入 1.1兆円(最上位目標)
 - 観光客一人当たりの消費額 93,000円
 - 平均滞在日数 4.5日
 - 人泊数 4,200万人(国内客3,200万人泊、外国空路客1,000万人泊)
 - 入域観光客数 1,200万人
- 2020年3月、那覇空港第二滑走路供用開始(年間離着陸回数:18.5万回)
- クルーズ寄港数が年々増加、東アジアのクルーズ拠点の形成。



クルーズ船バース

- 2017年、東部海浜開発地区に隣接する中城湾新港地区に16万トン級クルーズ船が初寄港。
- 沖縄県全体の寄港回数は662回(2018年見込み)。寄港数、県単位で全国一。
- 沖縄県は「東洋のカリブ構想」を推進し、2021年に200万人の海路外国人客をめざす。



優遇措置の紹介

国、県の主な支援策	観光地形成促進地域制度	<ul style="list-style-type: none"> 投資税額控除制度 事業税一部課税免除 不動産取得税一部課税免除
沖縄市の支援策	固定資産税課税免除	観光地形成促進事業等、沖縄振興特別措置法対象業種である事業所に対し、対象設備の固定資産税を5年間免除

令和3年3月改定

所在地: 沖縄県沖縄市潮乃森



沖縄市は、米軍基地の影響を受け成長するという特異な街づくりを体験した都市です。米国や中国、南米など40カ国以上の外国人市民が居住しており、生活習慣や言語等、多様な文化が混在する国際色豊かなまちです。文化のこもり高い美しい街、平和で豊かな街づくり、さらには共和のとれた産業の発展を積極的に推進し、活力あふれる、市民が夢と希望のもてる国際文化観光都市を実現することとしています。



お問合せ先
沖縄市建設部東部海浜開発局計画調整課
 〒904-8501 沖縄県沖縄市仲宗根町26-1
 TEL: 098(939)1212 FAX: 098(939)6313

東部海浜開発計画

開発コンセプト

スポーツコンベンション拠点の形成

開発の基本方針

「スポーツ」「健康・医療」「交流」をメインテーマとした開発を目指し、海に囲まれた緑豊かな環境の中で、スポーツや医療・保養などを通じて県民や市民、観光客が交流・健康づくりを行える空間を創出します。

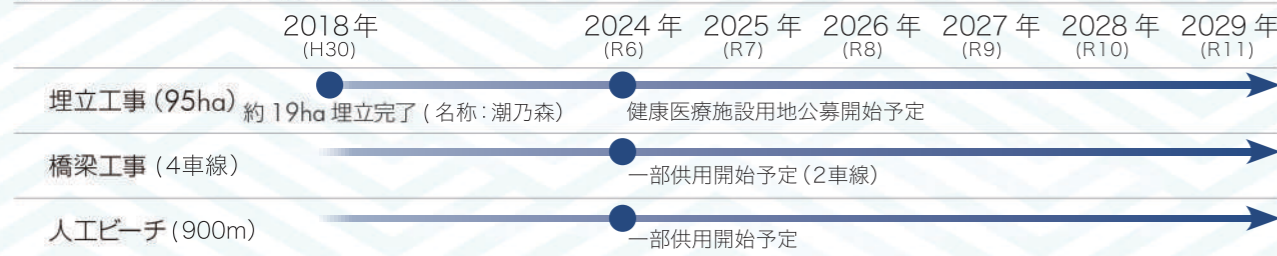
地区の特徴

- ・中城湾港の静穏な海域を眺望（3つの世界文化遺産を眺望）
- ・県内最大級となる約900mの人工ビーチを活かしたビーチフロント観光拠点が誕生
- ・本島中部に位置し、那覇空港や北部にも概ね1時間でアクセス可能な利便性
- ・市内にある県内最大級のスポーツ施設（沖縄県総合運動公園・沖縄市コザ運動公園）や、(仮称)沖縄市多目的アリーナと連携したイベント等に対応

東部海浜開発計画における導入機能イメージ

用途	導入イメージ
1 健康医療施設	スポーツ医・科学の専門領域である治療・リハビリからの競技力向上までを横断的に連携し、ここでしかできない独自のシームレスなサービス提供を行うため、スポーツ医・科学機能を核とした施設を整備。
2 宿泊施設	ビーチ沿いに立地する宿泊施設は、滞在型観光を推進する施設を整備し、国内外からの多様な宿泊ニーズに対応する施設を整備。
3 商業施設	海やマリナーへの期待感と賑わいを演出し、海の雰囲気を楽しめるショッピング、飲食ゾーンとして整備。
4 臨海商業施設	海やマリナーへの期待感と賑わいを演出し、海の雰囲気を楽しめるショッピング、飲食ゾーンとして整備。
5 人工ビーチ	県内で最長の人工ビーチとなり、海水浴やビーチパーティでの利用をはじめ、ビーチサッカーやマリンスポーツなどロングビーチを活かしたイベントの開催できる用地を確保。
6 多目的広場	天然芝のサッカー場やテニスのハードコート、多目的ドームでは各種スポーツや展示等、天候に左右されないあらゆるイベントに対応できる施設として整備。
7 野鳥園 外周緑地	外周に緑地配置し、野鳥生息空間を創出するとともに、環境学習の場として整備。
8 交流施設	国内外の集会、研修、講習会、会議、イベントホール、研修室及び海外の情報を提供する施設を備えた施設を整備。
9 栽培漁業施設	漁業資源の安定的確保、持続生産、水産業の振興や環境教育の場として整備。
10 マリナー	中城湾特有の静穏な海域は、年間を通して海洋レジャーを楽しめる環境であることから、遊漁船や旅客船等の船舶、プレジャーボートが利用する施設を整備。
11 小型船だまり	中城湾特有の静穏な海域は、年間を通して海洋レジャーを楽しめる環境であることから、遊漁船や旅客船等の船舶、プレジャーボートが利用する施設を整備。

東部海浜開発計画に係る工程表(案)



県内最大級 900 mのロングビーチの創出

- ・県内唯一のビーチスポーツに適した平面ビーチ 10,000㎡規模を整備
- ・スポーツ大会や音楽ライブといった一年を通じたイベントを開催するなど賑わいを創出
- ・アジアビーチゲームズ等の各種スポーツ大会の誘致に取り組み、ビーチスポーツの拠点として発信



スポーツ施設の連携

市内にある県内最大級のスポーツ施設（沖縄県総合運動公園・沖縄市コザ運動公園）や（仮称）沖縄市多目的アリーナと連携した大規模なスポーツイベントの開催が可能である。さらに、スポーツ合宿やスポーツ医・科学機能を備えた健康医療施設との連携による魅力向上を図り、回遊性を創出することにより相乗効果を高める。



「沖縄アリーナ」

沖縄市コザ運動公園内に、プロバスケットボールチーム「琉球ゴールデンキングス」のホームアリーナとして、またその他のスポーツ興行からコンサート、コンベンションまであらゆるイベントに対応できる施設として建設が進められている。メインアリーナは1万人規模で「FIBA バスケットボールワールドカップ 2023」の開催も決定。

